

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「滝沢第二小学校実践区（滝沢村）」《読書活動の推進》
 - 2 【 家庭学習 】 「保護者」から「親」へ
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
 - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「滝沢第二小学校実践区（滝沢村）」《読書活動の推進》

滝沢第二小学校実践区では、学校により朝読書や週末の図書全児童貸し出しが取り組まれています。また、地域の読書ボランティアが学校図書館の運営に協力しています。そして、月に1回はテレビを消して読書に取り組む「家族読書の日」を設定し、読書活動が推進されています。

事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_takizawa2.pdf

2 【 家庭学習 】 「保護者」から「親」へ

「飢えている人がいたら、食料を与えますか？それとも作物の育て方を教えますか？」・・・国際援助の際、援助者の姿勢に問いかけることばです。

当然、緊急を要する場合、食料を与える必要があります。それは、親切で尊い行為です。しかし、食料を与え続けていたら、飢えている人は自分の飢えという問題を自分で解決することなく、いつまでも他力本願のみで生きることになります。そして、頼らなければ生きていけない自分の無力さに嫌悪感を抱くようになります。

同じことが子育てにも言えるのではないのでしょうか？生まれたばかりの赤ちゃんを育てるときは、無条件に与えることが必要です。しかし、いつまでも親の指示で動いて（与え続けて）きた子は、自分で判断する力が弱く、また自分がすべき体験を親に先取りされてしまうことから、体験からの学びが少なく、問題を解決する力が育ちません。

援助者（親）としては、食料（指示）を与える方が簡単であり、「してあげている」という優越感を持ち続けることができます。技術を持たない人（子）に生きる術を教え、できるようになるのを待つのは時間がかかり、しかも、その人（子）が自立してしまえば、援助者（親）は必要とされなくなってしまいます。

子どもの人生は、子ども自身のもの。親がすべきは、やるべきこと（大人とし

て手本となる行動)を子どもに見せ、できるようになるまで待つことです。子どもの成長にしたがって、親も「保護者(保護する人)」から「親(真の援助をする人)」に育つのだと思います。

家庭での生活の仕方、家庭学習や読書活動・・・、「今、させる」ために指示を出してばかりではなく、「子どもの将来」を見据え、必要な生きる力を身につけさせたいものです。

3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- (教ちゃん) 子どものしつけは親がするものよね。では、親のしつけは誰がしたらいいの？
- (振ちゃん) 急に、何を言い出すのさ。
- (教ちゃん) 一関地区で開かれた「教育振興運動推進研修会」での講師 八戸大学教授 内海 隆 先生の問いかけなのよ。
- (振ちゃん) 「子どもを育てる地域の視点」というテーマの講演だったね。
- (教ちゃん) 大人社会のルールの確立や教育力の再生による新たな地域のネットワークづくりが必要と言っていたわ。「見て見ぬふり社会」から顔見知りの関係づくりによる「関わり社会」が必要だって。
- (振ちゃん) 子どもを育み、親や大人を育てるのが“地域”ということだよ。藤里振興会(奥州市)や永井地区教育振興運動推進会議(一関市)の実践発表もよかったよね。
- (教ちゃん) 本当。全県共通課題への取組についても発表があったので、次回、皆さんにも紹介したいわ。
-

4【みんなの声】ぺっこ言い隊

前回のメルマガで、宿題の2ページノートの取組について掲載(長内中学校実践区の実践事例)されていました。我が家でも、親から何度も促され、しかも遅い時間からしか宿題をやらないので、関心を持って読ませていただいたところです。そこで、このことについて質問したいと思います。

生徒が「ノート2ページ分の宿題をやってくる」というのは、全県的に行われているようです。生徒の自主性をはぐくみ、家庭学習の習慣化を身に付ける意味では有効なのかもしれませんが、授業を補うような、先生の指導と連動した宿題となっているのでしょうか？

聞くとところによれば、apple という単語を10回ノートに書き取りするとき、apple、apple、apple...と書かずに、a,a,a...、p,p,p...と書いてしまうなど、ノートを埋めるだけの作業になっている場合も多いということです。もっと一人ひとりの定着状況に合わせた宿題の出し方があると思いますが、宿題の在り方、授業との関係(連動)などについて教えてください。(H町 Cさん)

⇒ 新しい内容を教えるのは授業ですが、学んだ内容を自分のものにするには

家庭学習による復習やドリル練習が欠かせません。どの学校でも、授業との関連性を持たせ、学んだことを確かにする家庭学習が出されているはずです。

家庭学習は、自由に好きな勉強をする「自学ノート」ではなく、授業の内容を定着させるために必要なことと取り組ませる「家庭学習ノート」である必要があります。子どもの自主性に任せる「自学ノート」は、「家庭学習ノート」ができていて、更に力を伸ばしたい子がおこなうものです。

単語練習は、繰り返しにより定着を図り、テストで定着度が確認され、評価されるもの。ご意見のようなノートを埋めるだけの単語練習をしている子は、そのことを理解していないのであって、宿題の出し方以前の問題と言えます。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

5 【編集後記】あつしのひとりごと

『けいおん』というアニメを見ていた時のこと。主人公の女の子が「ミュージシャン」という進路希望を提出したら、担任に「却下」と言われてしまいました。「それはないよ」と言いつつ、「でも、ミュージシャンやお笑い芸人になりたいと言っても、反対しない親も珍しいよ。」と息子がこちらを見て続けました。

「一度しかない人生、やりたいことを目指せばいい。義務教育は終わって、親の責任は果たしたから・・・。」と私。その息子も20日（日）、花巻の街中ライブハウスで、20数名のお客さんを前に前座としてデビューしました。

結局、音楽仲間のおじさん、お兄さん・お姉さんに囲まれて夜中の12時まで。いろんな場にてかけ、いろんな人に出会い、学校では学べないことや経験できないことをすればいい・・・と、プロデュースしたのは父親の私でした。

⇒ 第24号は、7月13日（火）配信です。

★平成21年度配信のバックナンバー（第1～17号）はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

～～～